

2023 SHOC projectスタディーツアー報告書

[日程・活動地・参加者]

8月23日(水)から24日(木)の2日間、SHOCprojectは福島県いわき市へのスタディーツアーを行いました。

当日の参加者は1年生5名、2年生3名、3年生1名の、計9名です。

[活動目的]

福島県いわき市を訪れ、コラボさせて頂いているNPO法人ザ・ピープルさんのお話を通して団体の活動について学び、コットン畑を見学する。また、畑の管理に関してアドバイスをいただく機会にする。そして、東日本大震災に関して現地を回りながら学び、自分たちの活動の目的を再認識する。

[活動内容]

(1日目) 1日目はFスタディーツアーのご案内で、いわき市から双葉、富岡、樽葉、広野周辺をバスに乗りながら視察を行いました。



今年はいわき市の由緒ある旅館である古滝屋当主の里見喜生様ともツアー案内のご経験がある、坂本雅彦様が担当してくださいました。

バスの移動中も様々なことを教えて下さいましたが、現在はほぼ放射能の基準値は害のない程度ですが、森林等は木を切ったりしないといけないので除染が難しく、森林はまだ放射能が高い所もあるそうです。

※除染→放射能がついた土を取り除き、上に砂利を被せる。放射能がついた土は黒い袋に入れられ、中間貯蔵施設へ一旦持っていかれる。

また、辺り一面ソーラーパネルが広がる場所もありました。一見進んだ取り組みに思われますが、廃棄の時にリサイクル出来なかったり、自然や、町並みが壊される、この発電で電気が使われている場所は福島ではないというところが問題にあげられました。ソーラーパネル発電で電気を販売する商売もあるそうですが、これは福島の問題だけでなく、日本の問題ともとらえられると思いました。発電法について、考えなければならぬと感じました。



とみおかアーカイブミュージアムに案内していただきました。震災に関する映像や、当時使われていた看板等の資料が展示されていました。



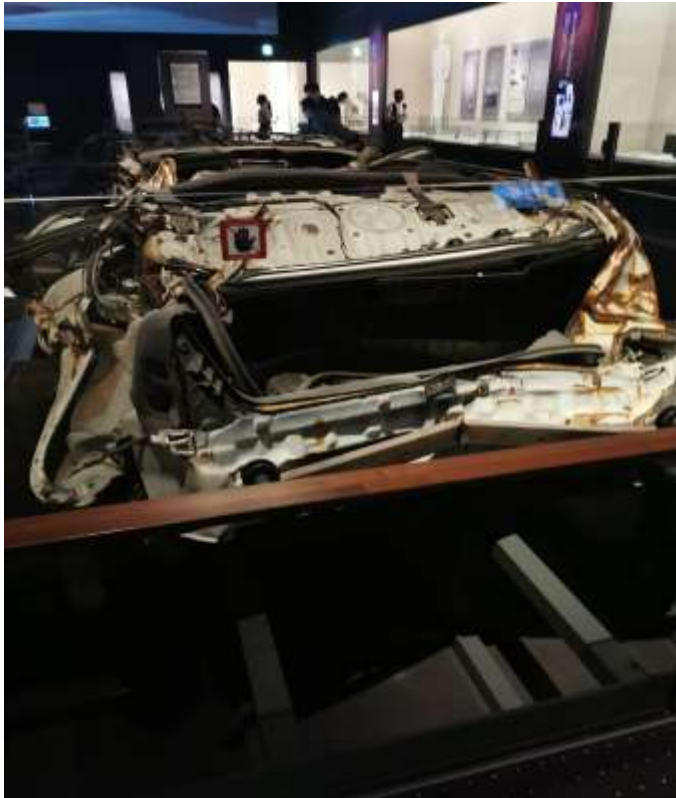


震災後の被災地のみなさんの行動についての映像がありました。特に印象に残っていることは、国や県から主要な連絡がなく、地域の災害対策本部で行動指示をしていたということです。地震があつて混乱しているにも関わらず、地域の方で協力しながら避難をしていたのだと感じました。また、一時避難するだけで、またすぐ戻れるだろうと思って避難した人もいたと聞き、当たり前であった地元での日常が、長期間知らない地で暮らすことになるというのはとても辛いことであつたと思います。地震だけでなく、津波、原発の爆発、複合災害は恐ろしく、事前に知らされる訳でもないので、事前に対策するというのも中々難しい事だと思ひます。ですが、地震の後に防波堤を作成したり、直ぐに逃げるといった学びを福島の方々は得ているので、自分達も近くに海や川は無いが、大きな地震が起きたらどう行動するかを予め準備しておこうと思ひました。

津波というのは報道などによる映像でしか見た事がないですが、津波で壊されたパトカーや、高い所まで津波が来たという看板を見て、改めて恐ろしさを感じました。とにかく早く、海から遠くの高い所へ行くのが大切だと学びました。



↑ 津波で被災した後に作られた新しい道路



↑津波で被災したパトカー



↑双葉町の役場

また、他の地域にも役所や駅などがありましたが、震災後に建てられたものが多く、新しい建物という印象が多かったです。

そして案内の途中で、地震の後の、そのまま家が崩壊した状態になっている所を見せていただきました。良い意味でも悪い意味でも、地震の威力について学ぶことができる場所でした。

戻ってくる住民の方もいるそうですが、ほとんどが避難先に住んでしまうということが多いそうです。建て替えの工事をしているお家もありました。



↑地震で壊れた建物。中は動物に荒らされたり、空き巣に入られてしまった所もあるそうです。



↑建て替え中の建物

ツアーの最後にサッカーチームいわきFCの拠点である、J-VILLAGEを見せていただきました。



た。



いわきFCはスポーツで地域を盛り上げたり、団結力を高める活動をしているそうです。

(2日目) 2日目は、SHOCprojectとコラボさせていただいているザ・ピープルさんの事務所へお邪魔させていただきました。

午前中は小名浜にある「上神白みんなの畑」で Cotton の収穫作業、除草を行いました。



いわき市も暑く、8月後半にも関わらず既にコットンがはじけていました。



学校の畑だと、メンバーのタイミングが合わなかったりして全員が収穫できるわけではないので、良い機会になりました。今年は学校のコットンの育ちが悪い状態であるので、来年は豊作になるよう、ポット栽培や土づくりから丁寧に行いたいと思います。



休憩の際に、スイカをご馳走していただきました。こまめに水分も取りながら、作業を行いました。

畑仕事の後は、事務所で昼食を取り、コットンを使ったワークショップを教えていただきました。私達が他の人に、この活動と一緒に伝えられるようにとおっしゃっていました。なので、学内でも教えてくださったワークショップを開催できたらと考えています。



まず、ベイブ人形作りは、小さい子にも参加しやすい、可愛らしいコットン人形を作ることができました。

人それぞれこだわりのポイントが違ったり、個性がでる作品を作れました。



次に、コットンを使った糸紡ぎ体験を行いました。



収穫したてのコットンを、まず種と綿の部分を分ける機械に通します。その後、弓の糸の部分で綿をほぐします。それをブラシのようなもので繊維の方向を揃えます。そうしたら、糸紡ぎの機械で糸として紡いでいくという流れです。

こういった一通りの流れがあることは初めて知りました。ふわふわのコットンがピンと張った糸になるのは驚きでした。



理事長の吉田様がおっしゃっていた、「震災から1歩をふみだして始めたプロジェクトから、今はコットンの多農薬を防ぐためのプロジェクト、エシカルファッションのためのプロジェクトとして変わっている。気づきがあった。」という言葉が印象に残っています。私達がSHOCprojectで活動している意義というものを再認識できたのではないかと思います。

[メンバーの感想]

(1日目)

■常磐自動車道をバスで走行しているとき、放射線量を示す電光掲示板を何度も見かけた。山間部や福島第一原子力発電所の近くは、出発点のいわき市よりも放射線量が高くなっており、場所による放射線量の違いが数字によって顕著に表れていた。普段見ることのないこの電光掲示板を見て、その数値を確認する必要があるという現状を身をもって感じた。役場が新設されていたりリフォームをしている家があったりする中で、傾いた電柱や変形したガードレール、廃れたコンビニや家電量販店など震災当時のままの姿を目にして、津波の恐ろしさを感じたとともに震災の被害は当時だけではなくあの日から12年以上たった現在にまで続いていると感じた。富岡町で訪れた「とみおかアーカイブ・ミュージアム」で一番心を動かされたものは、住民に避難誘導をしたのち津波によって亡くなった警察官が乗車していた大きく変形したパトカーである。他にも当時現地の人を書いた日記など資料が多く展示されており、東日本大震災がもたらしたことについて知り、それを伝えていくことが重要であると感じた。そして、二度とこのようなことが起きてほしくないと思う。

■特に印象に残ったのは地震によって崩壊された家がそのままの形で現在も残っていることだ。実際自分の目で見てみると自分が思っているよりはるかに残酷で驚いた。また地震が起きてから街並みなどが当時のままというのは放射線の影響で今も手につけられないということを知った。富岡町のミュージアムでは町民へ呼びかける実際原稿や小学生の避難日記などあまり見る機会がないようなものを沢山見て、今までテレビなどでは見ていたが現実味が

なく自分には程遠いものと思っていたが、今回の機会を通していつ自分の周りでこのようなことが起きるか分からないので避難用具など備えた方がいいなと感じた。

■初めて双葉郡へ行った。中でも印象的だったのは、地震が起きた当時から変わらないお店や街並みが12年たった今も存在することだ。普通の震災の場合は、復旧にここまで時間がかからないそうだが、放射能の影響で手がつけられないため仕方がないのだとわかった。他にも、通る車ができるだけ放射線を浴びないようにと信号がずっと黄色の点滅状態であることに驚いた。また、ツアーをしてくださった方は国の対応の仕方に納得していない様子だった。「こんなに被害をもたらした震災をなぜ親しみやすくするのかわからない」という言葉が思い出される。現地の人々の生の声を聞いて自分の目で被災地の現実を見れた良い経験だった。

■富岡町へのスタディーツアーにて

廃棄された畑にソーラーパネルが置かれていたが、20年後には寿命で使えなくなり、中にはリサイクルが不可な部品もある。太陽光発電は良いもの、という思いがあったが一長一短ということがわかった。

震災当時の爪痕が生々しく残る家がたくさんあった。空き家に空き巣が入る、野生動物の住処になってしまうなどの問題点があることを知った。

富岡町のミュージアムにて、震災遺産というものを学んだ。地震や津波の痕跡、被災物、仮設住宅などの景観、避難生活の写真や日記・メモなど災害に関するもの、情報などを指す言葉である。ミュージアムは、福島大学との協力で解体される前の建物から古い新聞や写真、古文書などを救い出し、資料として未来に歴史を伝えている。展示物の中にあつたパトカーについて、街の人々を守るため最期まで全力を尽くした警察官ふたりの話をしていただいたが、ニュースなどではよく福島の被害について見ている、実際に被災を経験した方々からのお話は身につまされるものがあった。

第一原発、第二原発の近くまでの見学もした。原発の安全神話、というものが信じられていたことも知った。

■ソーラーパネルが広がる場所があり、一見進んだ取り組みだと思ったが、廃棄する時リサイクルが出来なかったり、自然を削ってしまったりと問題もあるのだと知った。また、そのエネルギーは福島では使われず、東日本へ行くと聞き、この問題は福島だけのことではないと思った。また、原発も同じことで、福島だけでなく日本や世界の問題でもあるのだと感じる。また、地震により家が崩れたままの地域を見させてもらったが、未だその当時のまま残っているのも驚きで、住んでいる人も震災前より少ないそうで、こういった現状を様々な人に知ってもらいたいと思った。また、津波が実際来たという高さの看板がある港の近くに行ったが、本当にあの海からの波がここまできたのかと信じられない気持ちだった。津波で流されたパトカーの展示や、新しくなっている道路等を見ると、写真でしか見たことがないが、瓦礫だらけの状態だったのだと津波の恐ろしさを感じた。

(2日目)

■NPO法人ザ・ピープルの方々の協力のもと、畑でコットンの収穫と糸紡ぎ体験を行った。コットンの実のなり方や収穫の仕方を始め、糸にするまでの工程を道具を使いながら丁寧に

教えていただき、楽しみながらコットンに関する新たな知識を身につけることができ、有意義な時間を過ごすことができた。団体代表の方からは、私たちも行っている「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を始動させたきっかけや意義、活動の思いを聞かせていただき、このプロジェクトへの理解を深めるとともにここで得たことを生かして今後のSHOCの活動に力を入れていきたいと思った。

■ザ・ピープルさんの事務所におじゃまし、農作業や糸紡ぎ体験をさせていただいた。コットンの収穫をしたが、このようにしてコットンができるのか、ということを実際に目にする事が出来た。

糸紡ぎ体験では様々な道具を使って繊維を解し、糸にしていく過程を見ることが出来た。1本の糸を作ることも大変で、このようにして昔は糸を紡いでいたのか、と想像することができた。

なぜコットンなのか、ということも伺うことが出来た。コットンは潮風に強く、被災地でも育てやすかったからとわかった。またコットンを育てるには大量の農薬がつかわれており、このプロジェクトでは在来種のコットンは無農薬で育てることを大切にしていると学んだ。

■ザ・ピープルさんへお邪魔した。コットンというものの自体は知っていたがどのような感じで育っているのかやどう栽培するのかなど細かいことは知らなかったが、この機会を通してコットンが育つまで沢山の苦労があることを知れた。また、コットンを糸にするまでに多くの工程があり、またそれを体験できていい時間になった。震災が起きてから始まったプロジェクトが今もこのように続いていて規模も拡大していてすごいと思った。また自分も参加できたことが嬉しく思う。バイン人形作りや糸紡ぎ体験はコットンのことを多くの人に伝えるいい機会だと思い、私も他の人に興味を持ってもらえるように今後学校の活動で伝えていきたい。

■ザ・ピープルさんの畑と事務所にお邪魔した。小名浜の豊かな自然の中で育ったコットンは元気が良く、畑仕事にやりがいを感じられた。ザ・ピープルさんの畑でとれた美味しいスイカをいただいた。畑仕事の後のスイカは絶品だった。食べられない外側を自然にかえすことが新鮮だった。事務所では、コットンを糸にする過程がどんなに大変か身を持って体験することができた。バイン人形作りや糸紡ぎ体験は、オーガニックコットンを育てているということを多くの人に知ってもらいたい方法だと思った。

■ふくしまオーガニックコットンプロジェクトとしてコラボさせていただいているザ・ピープルさんにお邪魔した。畑では、コットンの他に柿や栗、バナナ等様々な植物が育てられていた。学校では全員のタイミングが合わなかったり、規模が小さいので、コットンの収穫を皆ができないことが多いが、皆で畑仕事できて良い経験になったと思う。そのコットンを糸にする為に、手作業で糸紡ぎ体験をさせてもらったのも、楽しく移り変わりを知れた。バイン人形も可愛さがあるので、他の人にも興味をもってもらえるように今後学校等で機会を作って伝えていきたいと思う。また、震災から始めたプロジェクトから気づきがあり、新たな課題を見つけ、今も続いているということが素晴らしい活動だと思った。